

神奈川県立こども医療センター オレンジクラブ



ボランティアニュース

Vol. 184 2019年2月号

発行 神奈川県立こども医療センター オレンジクラブ事務局

編集責任者 ボランティアコーディネーター 加藤 悅興

〒232-8555 横浜市南区六ツ川 2-138-4 Tel. 045-711-2351 (代表)

ホームページ <http://kcmc.jp/volunteer/>

e-mail kcmcvolunteer@kanagawa-pho.jp

「医師の会の先生方ありがとうございます。」

オレンジクラブ代表 三木美雪

今年度も、医師の会の先生方から、オレンジクラブへのご寄付 10万円をいただきました。

今回は、歯科の診察室前で佐々木先生からご寄付をいただきました。医師の会の先生方いつも本当にありがとうございます。

医師の会の先生方は、オレンジクラブをいつも応援してくださる強力なサポーターです。佐々木先生から「どうか皆さんのお慰労のために使っていただいてもいいのですよ」と私達を気遣つていただき暖かいお言葉をかけていただきました。先生の優しいお言葉に、日々のオレンジクラブの活動をご理解いただいている事大変嬉しく感じました。前回のご寄付からは、手術室前廊下のハム太郎の壁紙の汚れが目立つようになつきましたので、新しい壁紙の費用として使わせていただきました。手術に向かうおこ様の不安なお気持ちが、動物の楽しい図柄の壁紙を見る事で、少しでも和らげばと願っています。先生方からいただいたご寄付は、今回もおこさん、患者様ご家族のために使わせていただきます。これからも私達オレンジクラブ皆で力を合わせて頑張ってまいります。医師の会の先生方応援よろしくお願ひいたします。

医師の会会長の佐々木先生からご寄付を頂く
オレンジクラブ代表の三木さん



2月2日 こども医療センターにて足早く
春がきました。吊るしひな、お雛様、正面玄関
の輪飾りなどお楽しみください。



フットサルリボン活動について

「」ども医療センターでのフットサル教室

フットサルグループリーダー

湘南ベルマーレフットサルクラブ選手

一般社団法人 Ring Smile 代表理事

久光重貴

『できた』『楽しかった』『また来るね』『次はできるように頑張る』

こんな言葉を病院内にある地下の体育館で笑顔の子供たちから伝えてもらっています。

この活動をしている自分は湘南ベルマーレフットサルクラブで選手として活動をしている傍ら5年前から肺腺癌の治療中で抗がん剤治療を行っている久光重貴です。

そんな自分が抗がん剤治療をするなんて考えてもいなかつた中で治療を行いながら選手としてプレーも続ける事ができたのは多くの支えがあったからです。自分が支えてもらい前を向くことができたからこそ次は誰かの支えや力になりたいと思い一般社団法人 Ring Smile を立ち上げフットサルリボン活動を始めました。

病棟慰問は4年前から継続的に行い病院内でのフットサル教室は開始してから2年が経過致しました。基本的には毎日午前中は選手としてのトレーニングがあり月曜日の16時半から神奈川県立こども医療センターの地下にある体育

館で入院中、通院中の子供たちに向けてのフットサル教室を開催しています。

長期入院の子供たちに少しでも笑顔になつてもらいベッドでの生活を当たり前にしてほしくない。出来ること、出来ないことを始めから決めつけるのではなく挑戦してみて出来たことなかつけることなどのかを知つて欲しい。

一番に大切なことは一歩踏み出して挑戦してみる気持ちを楽しんでもらいたいと思っています。この活動ではフットサル教室と言つてもボールを使つた遊びや運動がメインで基本的に現役のフットサル選手が指導しています。

自分の他に活動に対し協力をしてくれる選手が対応していますが心強いのは元看護師のボランティアの皆さんが隨時帯同してくれています。

フットサル教室に参加をする為に病棟から一步踏み出していつもと違う環境で身体を動かしボールに触ることは入院中では当たり前の環境ではないと思います。しかしながら治療を終えて普段の生活に戻つた時に一歩踏み出さなければいけない状況は沢山あると思います。

そんな状況の為にもこの活動を通じて様々な経験をしてもらう事が活動の目的でもあります。子供たちが挑戦して楽しんでいる姿を見て周りの大人が応援をする姿がこの活動内には沢山あります。是非一度地下の体育館で活動の様子を見学しに来てください。

参加費などの会費は一切ございません。選手に会つてサインをもらつたり写真を撮りに来るだけでも歓迎します。中には医療従事者やお父さんお母さんが一緒にボールを蹴つて楽しんでいる光景もあります。

一人でいるより複数の方々とのボールを通じて笑顔になれる環境を作り続けたいと思っています。自分も一人では何も出来ません。この活動も多くの支援者がいて成り立っています。皆さんのが想いを大切に、何より治療に対して頑張っているご家族と一緒に笑顔の多い時間を共有していきたいと考えていますので一緒に前に進んで行きましょう。

笑顔の連鎖がより広がることを大切に活動していますので今後ともフットサルリボン活動を宜しくお願いします。



3月24日（日）
体育館で「プロフットサル選手とのふれあい会」を企画します。ご申し込み等は後日お知らせします。
(ボランティアコーディネーター)

今、自分に出来ることを一生懸命やること」

中村美奈子

息子は、生まれつきの脳性麻痺による四肢体幹機能障害で、車いすに乗つて生活しています。小さい頃から積極的で、何事にもチャレンジしようとすると子でしたが、大きくなるにつれて、自分には出来ないからやらない、我慢することが増えていきました。

そんなときに久光選手と出会い、自分もやつてみたい、フットサルを習いたい」と、強く思つようになりました。しかし、息子の思いを叶えてあげることが出来ずにいたある日、「病院でフットサル教室をやるよ」という久光選手の言葉を、とても興奮して聞いていた息子の姿を今でも覚えています。

当時の息子は、みんなと同じ事が出来ないなら、どうしたら出来るかを考えるのではなく、やらないことを選んでいました。でも、このフットサル教室を通じて、久光選手から「今、自分に出来ることを一生懸命にやることが大事な」とだと教えていただきました。

回を重ねるごとに、出来なかつことが少しずつ出来るようになり、それが自信となつて、普段の生活の中でも「まずやつてみよう!」と、あきらめる事をしなくなつたと感じています。

先日、湘南ベルマーレフットサルクラブのホーム最終戦の前座試合に出場する機会をいた

だき、丁分でいいからぼくもピッチに立ちたい」その強い思いが原動力となり、息子は、車いすではなく歩行器を使ってひとりでピッチに立ちました。いつも一緒に練習しているメンバーと同じユニフォームを着て、ひとりでピッチに向かっていく息子の姿、歩行器で立つ息子に寄り添つてくれる友達の姿に胸が熱くなり、本当に嬉しかったです。

仲間とか、チームとか、息子には経験のないことで、このフットサル教室がなければ、この先も経験することはなかつたかもしれません。私にとっても、ここで出会つた子供たちやお母さん方との交流は、かけがえのないものとなり、感謝の気持ちでいっぱいです。

このフットサル教室のためにご尽力くださいでいる久光選手、ボランティアスタッフ、病院関係者の皆さんに、心よりお礼申し上げます。

1月20日（日）本郷台のあーすぶらざで「子どもが教えてくれたこと」フランス映画、の上映会があり出かけた。重い病気を患つている5人の子ども（5歳から9歳）と、その周りの大人们的ドキュメンタリー映画だ。その大人たちとは、家族、医師、看護師等の人たち。この大人たちは、子ども（患儿）に向かつて正直に、分かる言葉でしっかりと病気を伝え、そして、子どもの意思をちゃんと聞く。子どもはしっかり聞いて、自分で良く考える。映画の中の子ども達は自分の病気を説明できていた。

「日本では今も自分の病気を理解している子どもはとても少ないのが現実だ」聖路加国際病院の細谷亮太先生がパンフレットにこう書かれている。

神奈川県立こども医療センターの子どもと大人はどうだろう。勿論、私たちぽんたも大人に入るのだが、子ども達と真剣に向き合つているだろうか。

どこかで「気の毒とか可哀そう」が先行して子ども達の、今、見ていないのではないか？ ぽんたは楽しいおはなし会を一生懸命やろう。



ぽんたトピックス

きくちゃん

おはなし会ぽぽんたは、毎週殆どの病棟を回り、本の読み聞かせや本の貸し出しを行っています。写真は、外来プレーコーナーでの活動です。



『ベイリーと本を読む会』日 1月15日（火）曇りのち晴



今日、僕（ベイリー）がボランティアをして いる『ベイリーと本を読む会』にお友達が二組、 来てくれました。

一組目は一年生くらいの男の子と女の子の 双子ちゃんで、二人で仲良く一冊の絵本を読ん でくれました。僕は途中でおやつが欲しくなつて、ボランティアハンドラのMさんにおねだり をしました。Mさんは『後で。』と言つて、おや

つは出できませんでした。

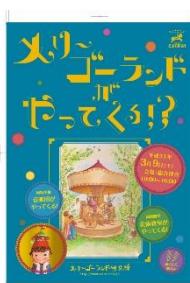
でも、やっぱりおやつが欲しくて、床に座つて いるMさんのひざを前足でトントンしてみまし たが、やっぱりおやつは出できません。おしま いのごあいさつの後で、ごほうびのおやつをも らいました。

二組目は5歳くらいの男の子で、ひらがなを 一つずつ頑張つて読んでくれました。2冊も読 んでくれました。男の子はお父さんから『二冊 も読めたね。』とほめてもらつて、うれしそうで した。

今日は、お友達とあそんで、おやつもたべて、 たのしかつたです。また、『ベイリーと本を読む 会』にお友達が来てくれるとき、良いなと思いま した。



（写真は、2月5日の読み聞かせの様子です）



『3月のイベントのご案内』

3月9日（土）劇団こころ魂（クリーン病棟予定）
3月10日（日）メリーゴーランド（総合待合室）



*外来のボランティアコーナーでは、多くの方 のご協力で、お子さんたちに折り紙作品をプレ ゼントしています。写真は、松尾様からのこま・ 三輪様からの指輪・小林様からの時計です。

ボランティア 2月の予定表

2019年2月				
月	火	水	木	金
				1
				2日(土)お雛様飾り
4	5	6	7	8
おもちゃ/クリーン am、4 南 pm フットサル(外来) つるし雛・外来ミーティング	アートワーク/4 東	Sホスピタ/5 西		Sホスピタル/4 東
11 12日 洗濯板パン ドコンサート:総合待 合時 14:00 (時間 変更有)	12 Hクラウン/クリーン・5 南 am、肢体・総合待合 pm おもちゃ/外来プレイコー ナー・園芸	13 縫製 手作り	14 ミルクティー/こころ・ 重心	15 おもちゃ/ハイケア 2am、4 西pm
18	19 ステッカーアート/4 東・4 西・クリーン フラダンス重心総合待合 こころ	20 縫製・手芸 Sホスピタ/5 西	21 トランペット 演奏 重心10:30 総合待合11:30	22 Sホスピタル/4 南 盲導犬/こころ 14: 00~、肢体 15:15
25	26 Hクラウン/ハイケア 2・こ ころ am、重心・総合待合 pm・園芸	27	28 ミルクティー/こころ・ 重心・総合待合 作業	

毎週月曜 フラワーアレンジメント

- ・毎週火曜日 高野さんとピアノで歌おう 10:00~10:45
- ・毎週月・水・金曜日 きょうだい預かり 10:30~16:00
- ・毎週火・金曜日 重心作業・月~金曜日 患者図書/外来
- ・毎週水曜日 ぽぽんたAM/PM

その他の活動・チャイルドウイッシュきょうだい預かり 毎日曜日 13:30~15:30

- ・ピアサポート 火~金曜日 10:00~15:00

3月の予定 ①ボランティア研修会 3月4日(月曜日)

講演「こども医療センターに通うこどもたち」母子保健推進室 小塩 節子

- ・ボランティア運営会議 3月18日 14:00~

*ボランティア運営会議 3月12日(火曜日)